

Title	アダム・スミスと国民主義経済学 ( アダム・スミス歿後一百五十年記念講演会講演 )
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1940
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.34, No.6 (1940. 6) ,p.851(105)- 867(121)
JaLC DOI	10.14991/001.19400601-0105
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19400601-0105">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19400601-0105</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## アダム・スミスと國民主義經濟學

(アダム・スミス歿後一百五十年記念講演會講演——昭和十五年六月十七日、  
慶應義塾大學大講堂に於いて)

高橋 誠 一 郎

本年は多數の人々によつて經濟學の創始者と呼ばれて居りますアダム・スミスが六十七歳を以つて此の世を去りましてから恰度一百五十年に相當いたします。今より十八年前、大正十二年即ち西紀一千九百二十三年六月五日には我が慶應義塾大學經濟學部は同じく本講堂に於きましてスミスの生誕二百年を記念する講演會並びにスミス關係圖書の展覽會を開催いたしました。非常の好成績を擧げることが出来ましたが、本日は其の例に倣ひまして、彼の歿後一百五十年を機として彼れを追憶する意味の講演會を開催いたすことと相成りました所、東京帝國大學、東京商科大學並びに早稻田大學よりは多大なる御援助を賜り、各々スミス研究の權威者を御派遣下さいましたことは洵に我が義塾の深く感謝する所であります。又、本日より向ふ六日間義塾圖書館記念室に於いて開催いたして居りま

するスミス著作展覽會には商科大學のメンガー文庫、帝國大學のスミス文庫其の他より貴重なる書籍の御出陳を忝うし、慶應義塾圖書館所蔵本の缺を補ふことを得ましたことも亦感謝に堪へざる所であります。尙ほ一言御断り申し上げて置かなければならぬことは、スミス病歿の日は一千七百九十年七月十七日でありますから、本來ならば、來月十七日を以つて本會を開催す可きではありませんが、何分それにては暑中休暇中のこと、相成りまするので、二個月繰り上げて今月今日舉行することゝいたした次第であります。西洋人は死去の年よりも寧ろ生誕の年を多く記念する習ひであるに加へて、彼れの故國英國は今や未曾有の國難に際會し、其の恐る可き強敵の侵略を防ぐが爲めに全力をあげて猶ほ足らざるを感じつゝある際でありますので、或ひは彼れを記念する餘裕などは不幸にしてないのではないかと思はれます。洵に彼れの國が第一次歐洲大戰に於ける戦捷後の榮光に浸つて居つた彼れの生誕二百年後の當時と思ひ合せまして感慨無量なるものがあります。彼れの祖國が危急存亡の秋に當りまして、彼れによつて其の『國富論』中に「メキシコ又はペリユーの何れに比しても豊富なる金坑若しくは銀坑を有することはないが、あらゆる他の點に於いて其の何れに比しても遙かに富み、更らによく耕作せられ、總べての技術及び製造業に於いて更らに進歩せる」國の一として舉示せられたる極東の帝國は、他に率先して、彼れの歿後一百五十年を記念せんとするのであります。

私は永年本大學に於いて經濟學史を講じながら、疏懶にして今以つてスミスに對する研鑽を缺き、特に此の記念講演會の壇上に立つて御清聽を煩す程の題材を持ち合せて居りません。唯だ些か茲に掲げました題目に就いて所感

を述べ、三大學の三教授諸君の御講演に對し前座の役目を勤めて、引き下り度いと思ふ次第であります。

二

獨逸は第十九世紀の初めに至る迄、國民經濟學の領域を支配する自國の創造的大才を缺いて居つたが爲めに、アダム・スミス經濟學は逸ち早く獨逸國內に侵入することが出来ました。彼れの『國富論』が出版せられました時、先づ此の書に注意を拂ひましたものは英國王室との關係からして特に英國心醉の傾向のあつたハンノオフア王國でありました。一千七百七十七年三月十日及び四月五日の Göttingische gelehrte Anzeigen 紙上に於いて此の國に於ける此の書に對する最初の評論が公にせられました。ギョッチンゲン大學の一教授は七十七年から八年に互る冬の學期に於いて之れに關する講義を行ひました。而して『國富論』が倫敦在留の獨逸人ヨハン・フリードリッヒ・シルラーによりまして *Untersuchung der Natur und Ursachen von Nationalreichthumern von Adam Smith*. 云々と題して一千七百七十六年から八年に互つてライプツヒヒに於いて發兌せられた當時に於いては、未だ顧る者とも少なかつたのであります。其の後一千七百九十四、五、六年に至りまして、通俗哲學者クリスチャン・ガルウエ及びアウグスト・テュリーンによつて *Untersuchung über die Natur und die Ursachen des Nationalreichthums von Adam Smith* 云々と題して原著の第四版から翻譯せられ、プレスラウに於いて四卷として發兌せられてから、此の偉大なる蘇蘭經濟學者の影響は漸次獨逸に於いて顯著と爲るに至りました。ゲオルグ・サルトリオスの *Handbuch der Staatswissenschaft, zum Gebrauche bey akademischen Vorlesungen, nach Adam Smith's Grundsätzen ausgearbeitet.*

は一千七百九十六年を以つて、又アウグスト・フェルディナンド・リュイーダーの Ueber Nationalindustrie und Staatswirtschaft, nach Adam Smith. は一千八百年から同二年に亙つて出版せられました。クリスチャン・ヤコブ・クラウスは既に一千七百八十一年を以つてキョオニッヒスベルグ大學に於いて「國富論」講義を開始いたしました。同九十六年フォイクトに書を寄せて、世界は會つて之れよりも重要な書に遭遇したることがないと述べて居ります。而して當時に於ける有名なる政治家ゲンツは同九十年十二月、其の友人に書を寄せて、彼れは三度び此の書を通讀せる旨を物語つてゐます。スミスの原理は多大なる反對を排して全獨逸に普及いたしました。ナポレオン戦争の終局に至ります迄に、官憲並びに教壇に立ちつゝある經濟學者は新思想の洗禮を受けました。シュタイン及びハルデンベルグは實に其の嚮導者でありました。而して、一千八百二十一年の普國關稅は慎重なる態度を以つてスミスの學說を適用せる歐洲最初の關稅でありました。英佛に比し産業的に後れて居つた獨逸人は彼れ等が其の製造品の大部分を輸入し、農産物を輸出しつゝあつた間は、英國を嘆美し、經濟的自由主義を採用することが出来たのであります。

スミスは洵に獨逸内に一學派を創設しつゝあつたのであります。彼れは恰もカントの哲學上に於けるに等しき地位を經濟學上に於いて占むるに至つたと稱せられてゐます。元來、此の國に於いては、經濟學は官房學の解體分岐から生じたのであります。第十九世紀の初めに於いて、ネリウス・フォン・ゾーデンは世界全般に互れる原則より生じ斯くて又人類全體に關する經濟學說を表示するが爲めに、初めて「國民經濟」(Volkswirtschaft) なる名辭

を使用し、而して之れを、政治的組織に基礎を有し國家の範圍内に於ける經濟的福利に關する學たる「國家經濟學」(Staats-Wirtschaftskunde) と區別いたしました。而して一千八百〇五年から同二十四年に亙つて出版せられた彼れの名著 Die Nationalökonomie. 九卷は實に前述せるガルウエ譯「國富論」の評論より現れたものであります。彼れは大體に於いてスミスの原理を採用すると共に更に系統的なる形態に於いて之れを表明し、若しくは之れに批評的修正を加へて、更に正確に斯學の根本概念を決定せんとしたのであります。

第十九世紀の初期以來、獨逸に於ける經濟學說の發達は、固より自國の哲學から幾分の影響を受けては居りましたが、根本的には依然として英國に依存せるものであります。然るに種々なる事情に據つて國民的感情の發達が他に比して後れて居つた此の國に於きましても、漸くにして國民主義的性質を有する經濟學說が表明せらるゝに至ると共に、スミスの學說は次第に非難攻撃の的と爲るに至りました。

獨逸國民觀念の發達に最も重要な貢獻を爲せる哲學者はヨハン・ゴットリーブ・フィヒテでありました。フィヒテは初めは自然法の信者であり、個人的自由主義者でありました。彼れは初期の著作に於いては、國家を以つて、單に自然的諸權利を防護するの手段であり、其れ自體に於いては斷じて目的たり得ざるものと説いたのであります。彼れは統治の目的は統治を不必要ならしむるに存すると思惟したのであります。然るに、彼れの思想發達の次ぎの段階に於いては、フィヒテは、其の論理的歸結に推し詰められた個人主義は、國家よりして純然たる諸權利の消極的維持以上の或るものを要求すと做すの結論に到着いたしました。そは是れ等諸權利を實施するが爲めに、特に經

濟的領域に於いて、國家の能動的、積極的干渉を要求します。フィヒテは、アダム・スミスの諸利益の自然的調和に關する意見、従つて又、其の正當視する自由主義的政策を以つて、英國の如く強大なる中層階級を有する繁盛にして統一せられた國土に於いてのみ唯り思考し得るものでありまして、繁盛でもなく、又統一しても居らず、且つ主として農業に依存する獨逸の如き國土は、個人の安寧幸福に取つて必要缺く可らざる經濟的安固を維持するが爲めに國家に依る積極的干渉の政策を要求することを主張いたします。斯くの如きものは實に一千八百年に發せられた彼れの *Der geschlossene Handelsstaat*. 中に表明せられた國家社會主義的理論であります。然しながら、此の思想發達の第二段階に於いても、猶ほ未だ彼れの理論は國民主義ではなかつたと稱せられておます。彼れの胸裡に於きましては、國家は如何に重要でありまして、猶ほ其れ自體に於いて目的ではなく、手段に過ぎざるものでありました。國民的基礎の上に建設せられた國家を以つて至高の善と做すの觀念が現れますのは、其の一千八百〇八年の *Reden an die deutsche Nation*. に於いてでありました。而も、彼れの國民主義は其の人道の世界主義的理想と調和するものでありました。

先づ哲學に根差せる有機的社會觀は、臆がて浪漫主義的運動に實を結びました。浪漫主義の經濟學者アダム・ミュラーは國民經濟の有機的單一性と永續性とを注意して、主として世界主義と個人主義とに挑戦いたしました。彼れはアダム・スミスの理論並びに一般の近代的經濟學が機械的、原子論的、個人主義的であつて、又、純然たる物質的性質を有する社會觀を提唱し一切の倫理的勢力を無効に歸せしめ、道德的指揮の必要を無視するものであり、又

結局私有財産及び私益の理論に過ぎざるものであつて、其の國民的共同一致及び歴史的連續不斷の關係に於いて、人民全體の生活を考察することなきを論據として之れを拒否いたしました。

獨逸の經濟的發達は英國の其れと比較して脆弱であり、後れて居りました。自由主義は既に市場に其の地歩を確保せる有力なる英國の商工業者に取つては著しく満足なるものでありました。然しながら、獨逸の自由主義者は彼れ等の師たる英國經濟學者等を學んで、自由貿易論者であつたのであります。全體としての中層階級は漸次英國流の經濟制度が決して獨逸に取つては祝福す可きものでないことを承認するに至りました。而してミュラーに負ふ所の極めて多いものと稱せられてゐる獨逸國民主義の經濟學者フリードリッヒ・リストは、アダム・スミスの研究が物質的價値を創造する人間の活動に限定せらるゝことを非難いたしました。リストを以つて觀れば、スミスは確かに人間の生産力が「熟練及び明察」に依頼することを承認しておますが、而も、這般の熟練及び明察の原因に關する彼れの研究に於いて彼れは分勞以上に其の歩を進むることなく、而して彼れは單に交換、物質的資本の増加及び市場の擴張によつてのみ之れを説明します。而して直ちに彼れの學説は愈々深く物質主義、自利主義及び個人主義に陥りました。彼れにして若し其の心を「價値」即ち「交換價値」の觀念によつて支配せしむることなく、「生産力」の觀念を追求いたしましたならば、彼れは經濟現象を説明するが爲めに、「價値の理論」の側に「生産力」の獨立なる理論を考察するの必要を會得するに至る可き筈でありました。リストに従へば、誤つて「工業」主義と稱せられた此の交換價値主義は價値の理論に過ぎざるものであり、單なる店商人若しくは個人商人の理論たるもので

あつて、如何にして全國民の生産力が其の文化、福利、權勢、存続及び獨立せる特殊の利益の爲めに存立せしめられ、増加せられ、維持せられ、又保存せられ得るかを示しつゝある科學的理論ではなかつたのであります。リストは自由主義學派の理論は三大疾患に悩まれてゐると考へます。第一は國民性の本質を認めず、又其の利益の満足をも考察することのない際涯なき世界主義、第二は國民の精神的及び宗教的、現在の及び未來的利益並びに生産力を顧慮することなく、常に物の交換價值のみを特に眼中に置く生氣なき物質主義、而して第三は其の一層高貴なる結果を生ず可き社會的勞働の本質及び協力の作用を誤認し、私的産業は全人類が別箇の國民的社會に分割せられざる場合には、自由交易によつて、社會即ち人類と共に自己を發達せしむ可きものとして全然之れのみを叙述する破壊的なる自利主義及び個人主義であります。

アダム・スミスは斯くの如く獨逸國民主義者から痛烈なる非難攻撃を受けたのであります。然しながら、私は寧ろ個人主義的、自利主義的、特殊主義的なる英國重商主義即ちマーカントイル・システムに對する反抗として彼れの經濟學は生れたものと觀ようとするのであります。

三

現代諸學者の間には重商主義を以つて國民主義的經濟體系と解釋するものが多いやうであります。例へば、エドガー・ザーリン博士の言ふ所を以つてしますれば、重商主義的短論篇の内容及び目的は、國民經濟として最もよく表徴せらる可きものでありまして、而して茲に所謂國民經濟は恰もフリードリッヒ・リストが之れを了解し而して彼

れに先立つ二百餘年の昔に於いて佛蘭西人アントアン・ヅ・モンクレシアンが「政治的經濟」の語を銘じたと同一の意味に於いてゞあり、「國家の光榮、擴張及び富裕」を總べての政策の自明的最高目的と推斷する意味に於いてゞあります。

然しながら、私共は所謂重商主義時代の「國民主義」は現代の國民主義とは相異なる基礎の上に立ちつゝあることを注意しなければなりません。曩きに一言いたしました如く、國民主義は第十八世紀及び第十九世紀に於ける浪漫主義の子であり、各個國民の先天的に決定せられた特性及び獨特の運命に對する信念の結果であります。斯くの如き思想は第十六、七世紀の人々には殆んど全く知られて居りませんでした。地理的位置と歴史的事情とに由つて英國の土地的上層階級及び商業的中層階級は他に先んじて國民的自負を有するに至つたのであります。然しながら第十八世紀以前に於いては、未だ此の國に於いてすら眞の國民主義は存することがなかつたと言はれてゐます。ストックホルムのエリ・エフ・ヘックシャは重商主義を以つて浪漫主義侵入以前の時代に行はれて居つた國家及び國民間の關係に關する見解を表明するものと做してゐます。彼れの言を以つてすれば、其の關心事は國家であつて、國民ではなかつたのであります。

然らば、重商主義は果して國家主義的なものでありましたらうか。御承知の如く、グスタフ・シュモラー及び其の學徒は、重商主義を以つて、近世初期に於ける國家形成の經濟的過程の總べてを包含するものと做してゐます。曩きに挙げましたヘックシャは重商主義的經濟政策の主體も客體も共に國家であると見てゐます。又、マーヴィ

ン・クロバツ博士は現代のファシストが其の全體主義的國家觀に於いて重商主義者等と共通なる多くのものを有するなどと説いてゐます。然しながら私は斯くの如き解釋は君主的若しくは官權的重商主義のみを觀て、非官權的若しくは本然の意義に於いての重商主義、即ち商人的重商主義を注意することなきに基くものであると考へます。重商主義を論じようとする者は英國の其れと大陸の其れとを區別するの必要があります。シュモラーの意見に追隨して、重商主義を以つて國家形成の經濟的過程の全般を包含するものと觀するの時、少くとも英國の如き國家的統一の業が早く第十三世紀の進みに於いて達成せられた國に於いては、重商主義は遠く中世に遡らざるを得ざるものと爲ります。洵に重商主義なる語に對して定義を與ふことは至難の業であります。然しながら、重商主義を以つて、若し、明確に特殊の歴史的一時期を理解するを得せしむ可き手段的若しくは用具的概念に過ぎざるものと觀ることが出來ますならば、吾人は「資本及び私益の至上權の歴史」の始まる第十六世紀に其の紀元を置き、而して先づ財寶即ち鑄貨及び地金を國家及び商人の貯へ中に齎し、之れを國內に保留するの手段として外國貿易を尊重し、次いで特殊の商人的利益を擁護し増進し得る限りに於いてのみ國家及び政府の統制及び干渉を希望し、更らに進んでは、一國の貿易が國內の産業に及ぼす影響を知るの指標として貿易の差額を重視するに至り、而して國家的權威を以つてする産業の指導管理が諸利害關係の矛盾撞着によつて其の實行困難と爲り、終に個人的自由主義が大體に於いて勝利を占むるに至る迄の經濟思想並びに經濟政策を指稱するを以つて最も便宜と看做す可きではありませんか。

今、近世的なる重商主義を中世的なる地金主義即ち bullionism に對置せんとするの當否は暫く之れを論じないことといたしますが、所謂地金主義の時代たる第十六世紀に於ける經濟文獻は猶ほ未だ國家的見地から論述せらるゝものが多かつたのであります。此の世紀の終末と共に商人的、特殊主義的見地に立脚せるものが頗る多きを加へて參ります。一千六百〇一年の頃から幾篇かの論篇を公にして地金主義者流の「爲替均衡の制度」を最も力強く主張してゐるものはデラール・ヅ・マリオンであります。彼れの意見に據りますと、爲替賣買は王立兩替人又は國王によつて公認せられた一定の他の者に制限せらる可きものであります。マリオンが王立兩替人の再興を主張しましたことは彼れに後暗い私利的な魂膽があつたものと認められてゐます。ジェームズ一世は、彼れにして若し出願者の要求を容れて同職を復活せしめざるならば、四十萬鎊を提供す可き旨を申し出られました。マリオンは恐らく是れ等の出願者等と氣脈を通じて居つたものであらうと想像せられてゐます。又、同じく一千六百〇一年の頃から諸論篇を刊行して、熱心に地金主義を主張せるトーマス・ミルスは全く外港即ち out-port の税關吏として立論してゐるものであります。彼れはマーチャント・アドヴェンチュラスの獨占が倫敦を發達せしめて、外港を疲弊せしむるものと思惟したのであります。而して、之れに對して一千六百〇一年 A Treatise of Commerce を上梓したものは實にマーチャント・アドヴェンチュラス會社の秘書ジョン・ホイラーアでありました。彼れは同會社を讒訴する外港の税關吏等に向つて警告を發し、マーチャント・アドヴェンチュラスの團體を維持するは過去に於いて國內及び國外に於ける君主の高き名譽と國家の顯著なる利益に資せる所であり、又現に資しつゝある所で

あると論結いたします。

而して第十七世紀に於ける最重要なる英國重商主義文献を構成するものは同國東印度會社が其の役員若しくは代辯人を通じて自己防禦の爲めに出版せる短論篇であります。而して他方に於いて同會社を攻撃するが爲めに起草せられた重商主義的文献の多くは、東印度貿易に参加せんことを欲する競争相手の商人の著作か、さもなければ、東印度産絹物及びキャラコの如き織物の競争によつて有害なる影響を蒙りつゝある内國織物業と多少の關係ある人々の著作であると言はれてゐます。

次いで、此の國に於ける君主專制政治の企圖が失敗に終り、王權主義に對する議會主義の勝利が明瞭と爲ると共に、商業政策の操縦は王室より議會に移り、通商上の事項は政争の具に供せられました。トリーリイ黨は東印度會社と和睦し、其の財力に依る援助によつて黨勢を伸張し、之れに對する報酬として其の獨占權を防護し、東印度産織物の輸入に穩和なる拘束と課税とを施して之れを許容せんとしました。之れに對してホイッグ黨は民望を博するが爲めに獨立商人及び製造業者の利益を尊重して獨占會社に反對いたしました。斯くて有力なるトリーリイ黨員であり、レヴァント會社の一商人であつたサー・ダッドリイ・ノースの如き「トリーリイ黨小冊子筆者」の觀察が黨派的先入の見によつて一層聰明と爲つたが如く、ジョン・ロックの如きホイッグ黨哲學者の經濟意見は往々にして其の黨派的偏見によつて其の透徹を缺く憾みがあつたと言はれてゐます。越えて一千七百十三年から同十四年に互り、ユトレッヒト平和條約に附帶せる通商條約を繞つて鬭はされた論戰に於いては、ホイッグ黨は貿易の自由への接近を怖る

獨立商人並びに酒類及び織物の國內製造業者によつて支持せられて政府の通商政策を攻撃いたしました。斯くて佛國貿易の有利を主張するトリーリイ黨御用記者グニエル・デフォー等の論著に對して、只管商人の偏見に訴ふる何等科學的價值なき「最も不條理なる形態に於ける重商主義の好例」と看做さるゝサー・シオードニア・ジャンセン其の他の著作が現れることゝ爲るのであります。

洵に、「重商主義のプリンス」と稱せられてゐるトーマス・マンの遺著 *England's Treasure by Foreign Trade* の第一章は「愛國奉公」即ち *the love and service of our Country* の語を以つて始まるものであり、其の他の重商主義的文献の大部分が國民的進歩發達の爲めに言説するものであつて、筆者等自身の私的目的の爲めにするものにあらざることを揚言しつゝあることは事實であります。然しながら、是れ等短論篇の筆者が主として彼れ等の關與せる業務上の利害の見地から言説しつゝあつたことは蔽ふ可らざる事實であります。

四

斯くて經濟上の諸問題に對する支配階級間に於ける特殊利益の衝突は遂に這般の問題に關する論述を哲學的檢討の下に置くに至らしめたのであります。而して蘇蘭の倫理哲學者アダム・スミスに至つて國民の經濟生活は一全體に包括せられ、國富の問題は最も公平無私なる態度を以つて總べての重要なる社會的方面から論述せらるゝことゝ爲つたのであります。

スミスは「我が國の重商主義によつて主として獎勵せらるゝものは、富者と有力者の利益の爲めに遂行せらるゝ



産業である」と做して嚴烈なる言辭を以つて之れを攻撃したのであります。而して彼れは人爲の制度が公共の利益を増進せんとして却つて其の目的を失する場合多きを觀、總べての特惠又は制限の制度が完全に撤廢せられたならば、明白單純なる自然的自由の制度は自から確立せらる可きものと説いたのであります。

スミスの要望せる自然的自由は、重商主義的規制及び干渉より脱却せる産業及び商業の自由でありました。彼れの攻撃の主たる標的は、一國に於ける一小部分の人々の小利益の爲めに全國に於けるあらゆる他の部分の人々の利益を損傷して顧みざる獨占的商人並びに舊套なる産業組織を自ら恃み其の獨占權を濫用して貧困なる勞働者と一般公衆とに損害を與へつゝある手工業者でありました。スミスは恰も産業革命の開始せられた時代に『國富論』の筆を運んだのであります。彼れの觀た資本主義社會は猶ほ若かつた。彼れの生存せる社會が經濟的活動の自由を以つて原則とするものであつたならば、彼れが國家に對して新たな任務を設けたことも亦、疑ひなき所でありませう。

フリードリッヒ・リストの指摘せるが如く、眞の國民的精神は一國が産業及び交易に於ける共通の利害によつて統一の一定程度位に到達せる際にのみ其の國に起り得るものであります。アダム・スミスが『國富論』を草した時代に於いては、アルフレッド・マーシャルの言ふ所に據りますれば、安定せる政治状態、可なりに良好なる道路及び印刷機は、英國國民中の教養ある階級を結合するに役立つ所が大でありましたが、而も地方的特殊の利害は往々にして猶ほ國民的利害よりも有力でありました。是に於い乎、彼れは又、經濟關係を地方的拘束より脱離せしめ、生産力を増加し、而して産業及び商業に新たな發動力を與ふるが爲めに個人主義と自由主義とを歡び迎へたのであります。

スミス其の人は熾烈なる國民主義者でありまして、彼れを以つて、國民性の本質を認めず、又國民的利益の滿足を考察することのない世界主義者であると看做すのは全然事實に反するものであります。「祖國及び人類」 *Et la patrie et l'humanité* はフリードリッヒ・リストが古典的自由主義の公準を攻撃せる喊聲でありました。然しがながら、靜かにアダム・スミスの書を通讀する者は、寧ろ斯くの如きものが彼れの眞綱領であつたことを發見す可きであります。彼れは其の大著を『世界の富』とも『個人の富』とも呼ばずして、『國民の富』と題しました。彼れは「各國經濟(ポリチカル・エコノミー)の大目的は其の國の富と力を増加するに在る」と説いて居りました。彼れは國防費を論ずるに當つて、戰爭の技術を以つて總べての技術の中で、疑ひもなく最も高尚なるものであると看做しました。彼れは又、屢々引用せらるゝが如く「國防は富裕よりも遙かに一層重要である」と稱して、航海條例が外國貿易に取つて不利なる影響を有するに拘らず、是れを以つて、英國の總べての商業規制中に在つて、恐らくは最賢明なるものであらうと論斷したことは周く人の知る所であります。加之、彼れは、如何なる國民と雖も、或る屬領を統治することが如何に困難であり、又是れに由つて生ぜしめらるゝ經費が、其の與ふる收入に比して如何に僅少なからざるものであるにせよ、斷じて自ら其の支配權を拋棄す可きではないと主張して居りました。殊に彼れが晩年の最大事業であつた『道德情操論』の校訂によつて其の最終版に挿入せられた第六部は、彼れの國民主義が如何に純正なるものであつたかを示してゐます。彼れに従へば、自國を愛するの念は人類を愛するの念から生ぜしめらるゝの觀なきものであつて、前の情操は全然後の情操より獨立せるものであり、又往々にして吾人をして之れと相容

れざる行動を取らしむるの傾向すら存するの觀あるものであります。彼れ曰く、「吾人は雷だに大なる人類社會の部分として吾人の國家を愛するのではない。吾人は一意其れ自體の爲めに、又全然斯くの如き考察から離れて、之れを愛するのである」と。スミスは實に世界主義者である以上に國民主義者であつたのであります。

五

今から恰度一百五十年前のことです。心懸りの原稿十六卷は友人ブラックとハットンの手によつて病めるスミスの目前に於いて焼き棄てられました。大部の稿本がメラ／＼と焼け失せた時、彼れの心は著しく軽くなりました。毎週日曜日を期して彼れの邸宅で開かれる晩餐會も終りました。其の夜九時半頃、彼れが友人等に強ひられて寢室に退く時、最後に残した言葉は、ヘンリー・マッケンヰイの耳には、「紳士諸君、私は諸君との交際を愛する、然しながら私はあの世へ赴くが爲めに諸君とお別れしなければならぬと思ふ」と響き、ハットンは彼れが「私達は暫く此の會合を中止して、或る他の場所で聞くことにしなければならぬ」と申したと傳へてゐます。これよりして約一週間の後、即ち一千七百九十年七月十七日の土曜日を以つてスミスは逝去したのであります。

資本主義はスミスの死後一百五十年間に於いて無量の變化を遂げました。若しアダム・スミスが蘇つて、今日の世界を見たならば、これが彼れによつて、あれほどまでに其の將來を輝かしく描寫せられた資本主義社會の成長後の姿であるかを、且つ訝り且つ驚くであります。然しながら、資本主義が如何に變化し、如何なる方向に向つて推移いたしますとも、彼れの經濟學は縱令ひ其のまゝでは受け容れられないにしろ、永く吾人に問題解決の示唆を

與へて行くであります。前述の如くスミスは今より一百五十年前に「私はあの世へ赴くが爲めに諸君とお別れしなければならぬ」と告げました。然しながら、彼れは其の死後永く彼れの二大偉著を通じて後人に親しく話しかけてゐます。彼れの時代以後に於ける歴史的變化の諸時期に特有なる諸問題は、彼れの學說中に包含せられた諸眞理の或るものをして特に顯要なる地位に立たしめて來たのであります。今後も恐らくは永くさうであることと思ひます。

御清聽を感謝し、茲に此の蕪雜なる講演を終ります。